

## 平成28年度 音楽科授業改善推進プラン

<p>〈実態の分析〉低学年(1・2年生) 音楽に興味・関心をもち、進んで学習に取り組んでいる。特に、歌唱の活動では、音楽に合わせて体を動かしながら楽しそうに歌う姿が見られる。</p>		
〈指導方法の課題〉	〈具体的な授業改善策〉	〈補充・発展指導計画〉
<p>[課題設定] 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。</p> <p>[学習形態] ・体全体で表現する活動を取り入れる。 ・ペアや少人数のグループでの活動を取り入れる。</p> <p>[発問・指示・板書計画] 題材名・めあてを板書する。</p> <p>[教材活用] わらべうたや、遊びうたを取り入れる。 [評価方法] めあてをもとに、表現方法や活動中の様子を評価する。</p>	<p>[指導目標の明示] 題材の目標や、1時間のめあてを明確にして学習を進める。</p> <p>[学習形態の工夫] 音楽を通して友達とのかかわりを深め、自分の表現への思いや、友達の思いを知ることなどで学びを深め、表現の能力の基盤を身に付ける。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫] 絵や写真等、視覚的にわかりやすい教材や資料の提示をする。</p> <p>[教材の工夫] リズム、拍の流れ、フレーズなどを感じ取りやすく、自然と体を動かしたくなる教材に取り組む。</p> <p>[評価の工夫] 中間発表等で児童の相互評価を行い、友達の良いところなどを全体で共有し、学びを深める。</p>	<p>[補充的な学習指導] 補充的な指導を必要としている児童への個別指導を行う。</p> <p>[発展的な学習指導] 身近にある様々な楽器に触れて、簡単なリズムや旋律を演奏し、音楽表現の発展につなげる。</p>

<p>〈実態の分析〉3・4年 意欲的に学習に取り組んでいる。歌唱の活動では、友達と声を合わせて、のびのびと歌っている。また、器楽の活動が好きで、自ら進んで練習をしたり、友達と音を合わせ、工夫して演奏する姿も見られる。しかし、技術的な面で個別指導を必要とする児童が数名いるため、教材の選択や指導の工夫が必要である。</p>		
〈指導方法の課題〉	〈具体的な授業改善策〉	〈補充・発展指導計画〉
<p>[課題設定] 基礎的な表現の能力を伸ばし、曲想にふさわしい表現を考え、思いや意図をもって音楽表現する。</p> <p>[学習形態] グループ活動を取り入れる。</p> <p>[発問・指示・板書計画] 題材名・めあてを板書する。</p> <p>[教材活用] 児童の実態に即した楽曲の選択。</p> <p>[評価方法] めあてをもとに、表現方法や活動中の様子を評価する。</p>	<p>[指導目標の明示] 題材の目標や、1時間のめあてを明確にして学習を進める。</p> <p>[学習形態の工夫] 音楽を通して友達とのかかわりを深め、自分の表現への思いや、友達の思いを知ることなどで学びを深め、表現の能力を伸ばす。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫] 絵や写真等、視覚的にわかりやすい教材や資料の提示をする。</p> <p>[教材の工夫] 児童が親しみやすい内容の歌詞やリズム、旋律の教材を扱う。また、楽曲の構造や楽器の組み合わせなどが児童の実態に合ったもので、楽しく表現できる楽曲に取り組む。</p> <p>[評価の工夫] 中間発表等で児童の相互評価を行い、友達の良いところなどを全体で共有し、学びを深める。</p>	<p>[補充的な学習指導] 補充的な指導を必要としている児童への個別指導を行う。</p> <p>[発展的な学習指導] 様々な楽器に触れて、音楽表現の発展につなげる。</p>

<p><b>〈実態の分析〉高学年(5・6年生)</b>          意欲的に学習に取り組んでいる。歌唱の活動では、旋律の流れに乗って、のびのびと歌っている児童が多い。器楽の活動では、自ら進んで練習する姿も見られる。しかし、教えたことや指示したことはできるが、自ら工夫して練習したり、思いや意図をもって主体的に表現するには十分でない。</p>		
<p>＜指導方法の課題＞</p>	<p>＜具体的な授業改善策＞</p>	<p>＜補充・発展指導計画＞</p>
<p>[課題設定]          基礎的な表現の能力を高め、楽曲や楽器の特徴を生かして表現を工夫し、思いや意図をもって音楽表現する。</p> <p>[学習形態]          グループ活動を取り入れる。</p> <p>[発問・指示・板書計画]          題材名・めあてを板書する。</p> <p>[教材活用]          児童の実態に即した楽曲の選択。視聴覚教材の利用。</p> <p>[評価方法]          めあてをもとに、表現方法や活動中の様子を評価する。</p>	<p>[指導目標の明示]          題材の目標や、1時間のめあてを明確にして学習を進める。</p> <p>[学習形態の工夫]          音楽を通して友達のかかわりを深め、自分の表現への思いや、友達の思いを知ること学びを深め、表現の能力を伸ばす。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫]          絵や写真等、視覚的にわかりやすい教材や資料の提示をする。</p> <p>[教材の工夫]          児童が親しみやすい内容の歌詞やリズム、旋律をもつ教材を扱う。また、表現の活動と鑑賞の活動の関連を図りながら、表現の能力を高められるようにする。</p> <p>[評価の工夫]          中間発表等で児童の相互評価を行い、友達の良いところなどを全体で共有し、学びを深める。</p>	<p>[補充的な学習指導]          補充的な指導を必要としている児童への個別指導を行う。</p> <p>[発展的な学習指導]          様々な楽曲・楽器に触れて、音楽表現の発展につなげる。</p>

## 平成28年度 図工科授業改善推進プラン

<p><b>〈実態の分析〉低学年(1・2年生)</b>          興味・関心がとても高く、どの題材に対しても意欲的に活動に取り組んでいる。見たこと、感じたことを素直に表現できる児童が多い。特に、絵の具を使う題材では、色を混ぜたり塗ったりしながら、自分の色を見つけ、進んで取り組む姿が見られる。</p>		
<p>＜指導方法の課題＞</p>	<p>＜具体的な授業改善策＞</p>	<p>＜補充・発展指導計画＞</p>
<p>[課題設定]          進んで表したり見たりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。</p> <p>[学習形態]          個人での表現活動の他に、グループでの活動や、学年全員での共同活動も取り入れる。</p> <p>[発問・指示・板書計画]          題材名・めあてを板書し、絵や写真を活用して、視覚的にもわかりやすく提示する。また、安全面での指示は、全体・場面に応じて支援を行う。</p> <p>[教材活用]          毎年新たな教材を導入し、子どもたちの創造力を引き出す。自然素材やリサイクル素材を有効活用する。</p> <p>[評価方法]          めあてをもとに、表現方法や活動中の他の児童との関わり、作品への取り組み方を評価する。</p>	<p>[指導目標の明示]          児童が意欲的に造形活動に取り組めるように、授業毎でのめあてを明確にし、課題の提示方法を工夫する。</p> <p>[学習形態の工夫]          個人の表現活動・グループでの表現活動後、必ず鑑賞の時間を設定し、他の作品を通じて、豊かな発想や体全体の感覚を養う。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫]          意欲を高める題材を選び、安全面についての留意事項等は、カラーチョークでわかりやすく提示する。</p> <p>[教材の工夫]          児童が興味を持ち、豊かな創造力を引き出せる教材をさらに工夫する。</p> <p>[評価の工夫]          児童の活動中のつぶやきや、他の児童との関わりの中で育まれた創造性を全体に提示し、反応や動きを把握する。</p>	<p>[補充的な学習指導]          題材によっては、完成までに大きな時間の差が生じることがあるため、短時間で取り組める工作を取り入れ、全体のバランスを図る。</p> <p>[発展的な学習指導]          技法を多く取り入れ、苦手な児童にも多くの成功体験をもたせるようにする。</p>

**〈実態の分析〉中学年(3・4年生)**  
 題材への取り組みがとてよく、与えられた材料から発想を広げ、様々な可能性を試みて活動している。また、鑑賞活動を通じて、グループで話し合ったり、他の作品のよさに気付いたりするなど、積極的に発表できる児童が多い。しかし、絵画的な技能面で、なかなか描けず考え込んでしまう児童が数名いるため、個別に支援が必要である。

＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<p>[課題設定] 身近な材料や場所などを基に発想してつくったり、これまでの経験を生かし、組み合わせたり、形を変えたりしてつくるようにする。</p> <p>[学習形態] 個人での表現活動の他に、グループでの活動や、学年全員での共同活動も取り入れる。</p> <p>[発問・指示・板書計画] 題材名・めあてを板書し、絵や写真を活用して、視覚的にもわかりやすく提示する。また、安全面での指示は、全体・場面に応じて支援を行う。</p> <p>[教材活用] 毎年新たな教材を導入し、子どもたちの創造力を引き出す。自然素材や身近な素材を有効活用する。</p> <p>[評価方法] めあてをもとに、表現方法や活動中の他の児童との関わり、作品への取り組み方を評価する。</p>	<p>[指導目標の明示] 児童が意欲的に造形活動に取り組めるように、授業毎でのめあてを明確にし、課題の提示方法を工夫する。</p> <p>[学習形態の工夫] 個人の表現活動・グループでの表現活動後、必ず鑑賞の時間を設定し、他の作品を通じて、豊かな発想や体全体の感覚を養う。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫] 意欲を高める題材を選び、安全面についての留意事項等は、カラーチョーク等でわかりやすく提示する。</p> <p>[教材の工夫] 児童が興味を持ち、豊かな創造力を引き出せる教材をさらに工夫する。</p> <p>[評価の工夫] 児童の活動中のつぶやきや、他の児童との関わりの中で育まれた創造性を全体に提示し、反応や動きを把握する。</p>	<p>[補充的な学習指導] 題材によっては、完成までに大きな時間の差が生じることがあるため、短時間で取り組める工作を取り入れ、全体のバランスを図る。</p> <p>[発展的な学習指導] 技法を多く取り入れ、苦手意識をもたせないように多くの成功体験をさせる。</p>

**〈実態の分析〉高学年(5・6年生)**  
 意欲が高く、絵よりも工作を得意とする児童が多い反面、絵画的な表現では、視覚的に捉えることに難しさを感じ、自信がもてず制作が進まない児童も見られる。鑑賞の活動を通して、グループで話し合ったり、表現の幅を広げられるように支援していく。

＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<p>[課題設定] 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、つくりだす喜びを味わうようにする。</p> <p>[学習形態] 個人での造形活動の他に、グループでの活動や、学年全員での共同活動も取り入れる。</p> <p>[発問・指示・板書計画] 題材名・めあてを板書し、絵や写真を活用して、視覚的にもわかりやすく提示する。また、安全面での指示は、全体・場面に応じて支援を行う。</p> <p>[教材活用] 毎年新たな教材を導入し、子どもたちの創造力を引き出す。自然素材やリサイクル素材を有効活用する。</p> <p>[評価方法] めあてをもとに、表現方法や活動中の他の児童との関わり、作品への取り組み方を評価する。</p>	<p>[指導目標の明示] 児童が意欲的に造形活動に取り組めるように、授業毎でのめあてを明確にし、課題の提示方法を工夫する。</p> <p>[学習形態の工夫] 個人の表現活動・グループでの表現活動後、必ず鑑賞の時間を設定し、他の作品を通じて、豊かな発想や構想の感覚を養う。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫] 意欲を高める題材を選び、安全面についての留意事項などは、カラーチョークでわかりやすく提示する。</p> <p>[教材の工夫] 児童が興味を持ち、豊かな創造力を引き出せる題材をさらに工夫する。</p> <p>[評価の工夫] 児童の活動中のつぶやきや、他の児童との関わりの中で育まれた創造性を全体に提示し、反応や動きを把握する。</p>	<p>[補充的な学習指導] 題材によっては、完成までに大きな時間の差が生じることがあるため、短時間で取り組める工作を取り入れ、全体のバランスを図る。</p> <p>[発展的な学習指導①] 技法を多く取り入れ、苦手意識をもたせないように多くの成功体験をさせる。</p> <p>[発展的な学習指導②] 鑑賞の時間を活用し、作品のよさや、見る視点のポイントを押さえ、多面的な捉え方をもたせるようにする。また、絵や工作の表現の幅を広げる手立てとして、ICTを活用し、様々な美術作品の知識・理解を深める。</p>

## 平成28年度 家庭科授業改善推進プラン

〈実態の分析〉5年生  
 どの題材に対しても関心、意欲が高く積極的に興味を持って学習に取り組んでいる児童が多い。しかし、技能面では定着状況の差が大きい。

＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<p>[課題設定]                      ・学習導入時に明確に本時の目標を知らせる。</p> <p>[学習形態]                      ・導入時やまとめ時の一斉での学習時と個別に取り組む学習を明確にする。</p> <p>[発問・指示・板書計画]                      ・実技面での指示は見通しが持てるようにする。                      ・道具の使用の安全を怠らないように声をかけ確認する。</p> <p>[教材の活用]                      ・実技の例示カードは後ろの席からでもはっきりと見えるような工夫が必要。                      ・2月に行われる「展覧会」で保護者や他学年の児童が、参観する事ができる教材に取り組む。</p> <p>[評価の方法]                      ・毎時間の観察を怠らないようにし、学習ノートの記入の仕方や、作業の様子から評価をし次時へ生かす。                      ・2年に1回開催される「展覧会」をよりよい評価の場と捉える。</p>	<p>[指導目標の明示]                      ・毎時、学習導入時に本時の目標を明確にする。児童が自分の生活とかかわらせながら学習に取り組めるようにしめす。</p> <p>[学習形態の工夫]                      ・題材に合わせた形態を考え、安全に作業ができるようにする。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫]                      ・文字や図で黒板に手順や指示を示し、いつでも児童が確認できるようにしておく。</p> <p>[教材の工夫]                      ・黒板用の掲示物は後ろでも見えるように文字や図の大きさに留意し作成する。                      ・児童の技能面の向上をめざし、短時間で完成し、一人一人が成就感を味わうことができる教材に取り組む。</p> <p>[評価の工夫]                      ・出来上がった作品や、学習カードは適宜掲示し自己評価の場とする。                      ・毎時間の観察を丁寧に行い、児童のノート記述やプリント記述の評価を適切に行い、テストによる評価も加えていく。                      ・「展覧会」に一人一人の完成作品を展示し、よりよい評価の場とする。</p>	<p>[補充的な学習指導]                      ・児童同士でも教え合える環境作りをし、「ミニ先生」として、作業の早い児童から支援を受ける。</p> <p>・個別に参考になるような資料を、いつでも見たり触ったりすることができるように、教材の準備をする。                      ・休み時間や、給食準備の時間を活用し、個別での支援時間を確保し、支援にあたる。</p> <p>[発展的な学習指導]                      ・作業が早く終わった児童には、自分自身で新たな作品作りができるようにする。そのために参考書や材料などをそろえ、積極的に取り組めるようにする。                      ・「ミニ先生」として、作業が遅れがちな児童への支援を依頼し技能面で高い評価を受けた児童もより向上に努めることができる。</p>

〈実態の分析〉6年生  
 家庭科を好きな児童が多い。技能面では、5年生の時に比べ、技能面では力を付けた児童が多い。落ち着いた様子で学習に取り組み、教え合いながら実習等を進めている。

＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<p>[課題設定]                      ・学習導入時に明確に本時の目標を知らせる。</p> <p>[学習形態]                      ・導入時やまとめ時の一斉での学習時と個別に取り組む学習を明確にする。</p> <p>[発問・指示・板書計画]                      ・実技面での指示は見通しが持てるようにする。                      ・実技面の道具の使用の安全を怠らないように声をかけて確認する。</p> <p>[教材の活用]                      ・実技の例示カードを分かりやすく掲示し、児童が視覚からの理解を得られるようにする。                      ・完成見本や段階見本を提示し、見通しを持って学習に臨めるようにする。                      ・2月に開催される2年に1回の「展覧会」に向けてより、児童の力が発揮できるような教材を準備し、取り組む。</p> <p>[評価の方法]                      ・毎時間の観察を怠らないようにし、チェックシートへの記入をし、次時へ生かす。</p>	<p>[指導目標の明示]                      ・毎時、学習導入時に本時の目標を明確にする。児童が自分の生活とかかわらせながら学習に取り組めるように示す。</p> <p>[学習形態の工夫]                      ・題材に合わせた形態を考え、安全に作業ができるようにする。</p> <p>[発問・指示・板書の工夫]                      ・予想される質問の答えを板書やプリントで示したり、文字や図で黒板に手順や指示を示し、いつでも児童が確認できるようにしておく。                      ・安全確認を常に行いながら、児童が自ら気をつけて学習を行えるようにする。</p> <p>[教材の工夫]                      ・黒板用の掲示物は後ろでも見えるように文字や図の大きさに留意し作成する。                      ・「展覧会」は、よりよい作品展示の場と捉え、技能面や、それぞれの創意工夫された作品が展示できるようにする。</p> <p>[評価の工夫]                      ・作品や、学習カードについては、適宜掲示し自己評価の場面を設ける。                      ・毎時間の観察を丁寧に行い、児童のノート記述やプリント記述の評価を適切に行い、テストによる評価も加えていく。</p>	<p>[補充的な学習指導]                      ・作業の進み具合に応じて、児童同士で進めるグループや、指導の必要なグループに分け、学習効果が上がるようにする。                      ・個別に支援が必要な場合は休み時間や、給食準備中の時間を使い支援する。</p> <p>[発展的な学習指導]                      ・作業が早く終わった児童には、自分自身で新たな作品作りができるように、手縫いで行う小物の型紙や、刺繍の図案等を用意し積極的に作品作りに取り組めるような環境を整える。                      ・「ミニ先生」を教師が依頼し、分からない児童や作業が遅れがちな児童への支援をする、そのことはより自分自身の能力向上にも繋がっていく。</p>